

小樽市銭函

高橋 良直

自宅から近いことで私が年間を通してほぼ毎週鳥見に通っている場所は新川河口です。通常「新川河口」といえば、札幌市西区から北西方向に流れ石狩湾に注ぐ新川の河口から右側、石狩湾新港までの約4kmの砂浜をいいます。正式な地名としては小樽市銭函4、5丁目です。シギ・チドリ類が間近に観察できることでよく知られています。新川河口については、本紙「野鳥だより」第96号（1994年）で野坂英三さんが「私の探鳥地」として書かれており、今回は新川河口の左岸側の区域を鳥見のポイントとして紹介したいと思います。



この区域は、銭函市街の東端から東北東方向に新川に至る、長さ約4kmの砂浜と草原、カシワを主体とした林などからなっており、中を星置川が横断しています。正式な地名は銭函2、3丁目となります。この区域の西側に7階建てのホテル（ルナコースト）があり、その外壁で毎年イワツバメが営巣しています。ここから海岸に平行して道路が走っており、この両側の草原では、ヒバリ、ノビタキ、ホオアカ、ノゴマ、コヨシキリ、ニューナイスズメなどの夏鳥が見られます。特にホオアカは、札幌近郊でこれほど見られるところはほかにはないので、と思われるほど多いです。ノゴマは、ドリームビーチ駐車場に沿った草地に多く、背の低いカシワの枝でさえざる姿がよく見られます。一度だけシマアオジを見たこともあります。

星置川の河畔を歩くと結構意外な出会いがあって楽しめます。アオジ、アカハラ、モズ、オオヨシキリ、カッコウ、アリスィ、ムクドリ、コムクドリ、イソシギ、ショウドウツバメ、マガモ、コガモなどで、たまにカワセミにお目にかかることもありますし、夏羽のオオハム

が迷いこんでいるのを間近に見たこともあります。

この場所のベストシーズンは、これらの夏鳥が見られる 5、6 月ですが、海岸に出るとほぼ通年鳥見を楽しむことができます。砂浜ではシギ・チドリ類を観察することができ、トウネン、ハマシギ、ミユビシギなどはもちろん、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、オバシギ、コオバシギ、チュウシヤクシギなどもたまに見られます。ヘラシギやコクガンを見たこともあります。積雪期は海岸に平行する道路は通行できなくなりますが、国道から入ってドリームビーチまでは行くことができ、ここから沖を眺めるとクロガモやシロカモメのほかにハジロカイツブリ、カンムリカイツブリなどがしばしば見られます。

森林性の鳥やカモ類が少ないので、これまでにこの場所で観察できた野鳥は 110 種ほどで、さほど多いというわけではありません。しかし、特に知られた探鳥地というわけでもないこんな所でも、これほどの野鳥が観察できるということは素晴らしいことだと思います。ハマナスやハマヒルガオなどの海浜性の花も楽しめますので、お近くにお住まいの方は一度探訪されることをおすすめします。